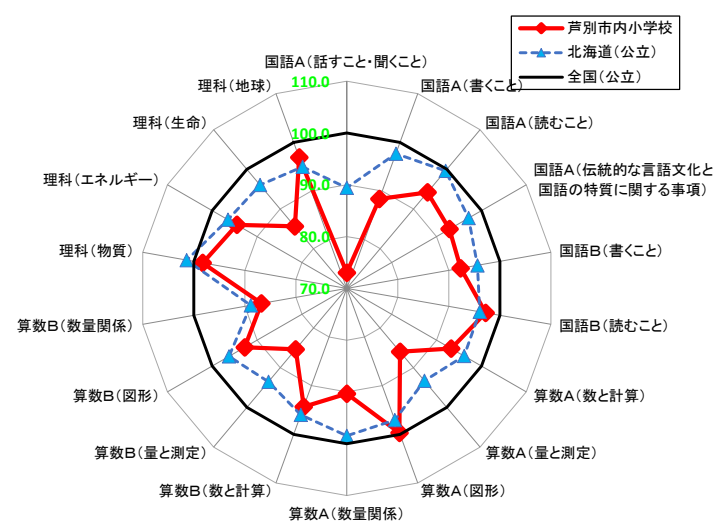


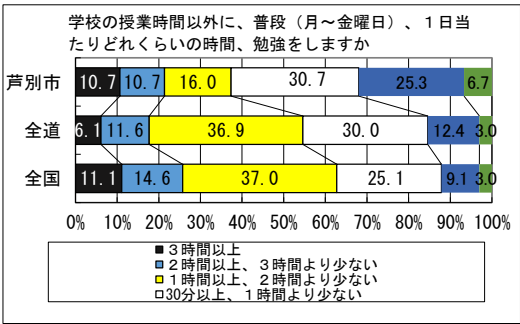
■ 芦別市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2、児童数:75名)

【教科全体の状況】

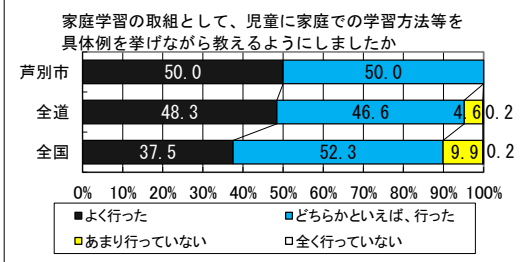
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



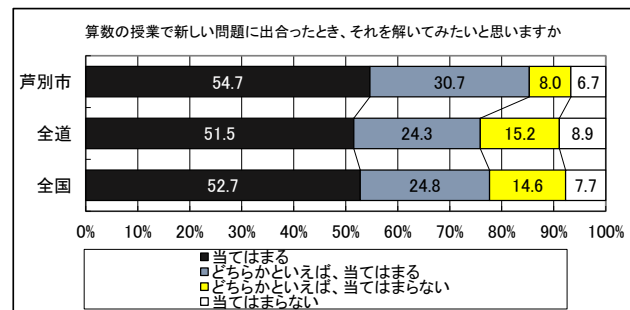
【児童質問紙調査1】



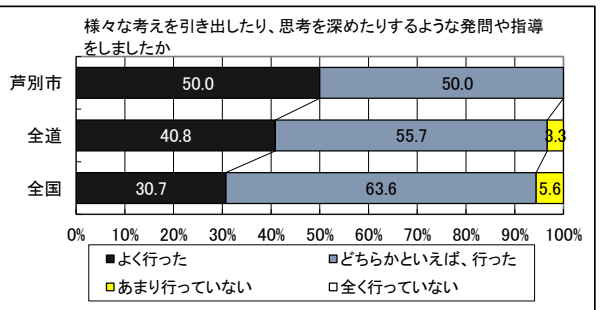
【学校質問紙調査1】



【児童質問紙調査2】



【学校質問紙調査2】



【分析】

教科	○ 国語Bでは「読むこと」で全道を上回っている。 ○ 算数Aでは「図形」で全道を上回っている。 ○ 理科では「地球」で全道を上回っている。	○ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をよく行った結果、児童の学習意欲が高まり、国語Bの「読むこと」、算数Aの「図形」、理科の「地球」で全道を上回ったと考えられる。
児童質問紙	○ 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回っている。	○ 平均正答率の推移については、算数で思考力を高める指導を行った結果、児童が算数を好きになり、算数A・Bでは、全国との差が縮まってきたと考えられる。
学校質問紙	○ 「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」という質問に対して「よく行った」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。	○ 家庭学習を1時間以上行っている児童の割合が、全国及び全道に比べて低いことから、家庭学習の定着を図ることに課題が見られる。

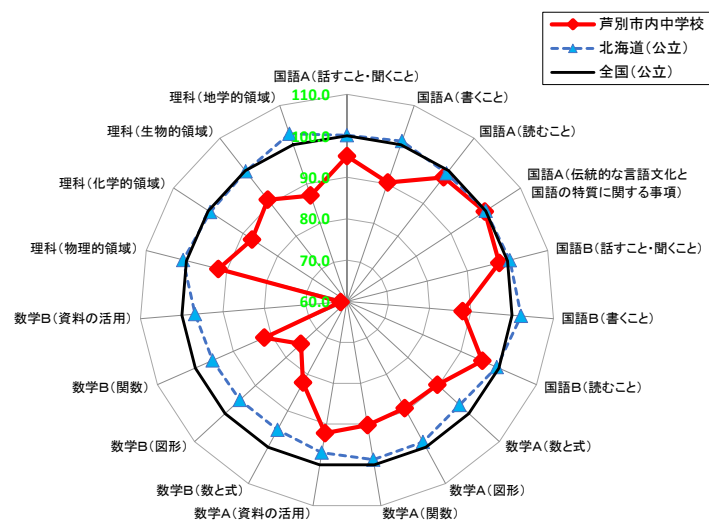
【芦別市の学力向上策】

- ◎ 算数授業でのTT(チーム・ティーチング)や少人数指導・習熟度別指導などの指導形態の工夫改善によるきめ細やかな指導
- ◎ 生活リズムチェックシートを活用した生活習慣の見直し及び家庭学習の習慣化
- ◎ ほっかいどうチャレンジテストの活用及び朝学習や長期休業中の学習会の実施
- ◎ 規則正しい生活習慣や学習習慣の定着を図るための通学宿舎の実施

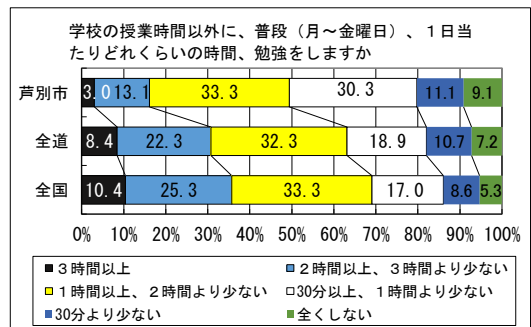
■ 芦別市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2、生徒数:99名)

【教科全体の状況】

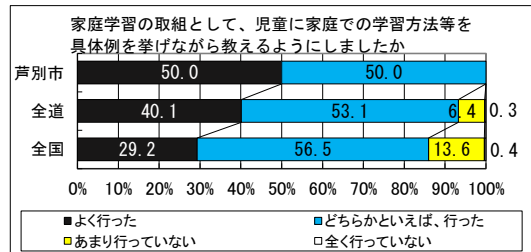
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



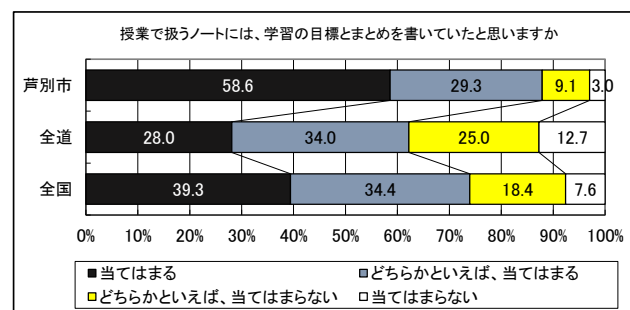
【生徒質問調査1】



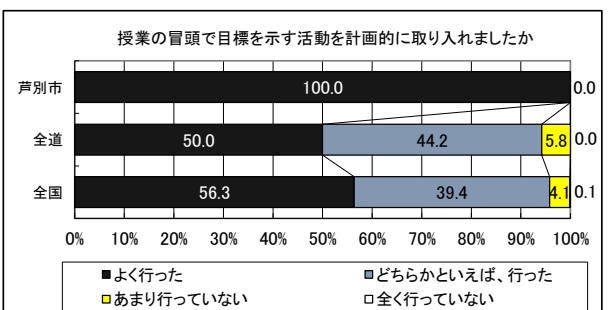
【学校質問紙調査1】



【生徒質問紙調査2】



【学校質問紙調査2】



【分析】

教科	○ 国語Aでは「読むこと」で他の領域と比べて全国に最も近い。 ○ 数学Aでは「資料の活用」で他の領域と比べて全国に最も近い。 ○ 理科では「物理的領域」で他領域と比べて全国に最も近い。	○ 授業の冒頭で目標を示す活動を計画的によく取り入れた結果、生徒がノートに学習の目標とまとめを書くようになり、国語Aの「読むこと」、数学Aの「資料の活用」、理科の「物理的領域」で他領域と比べて全国に最も近づいたと考えられる。 ○ 平均正答率の推移については、目標を明確にした授業づくりに取り組んだ結果、生徒が国語の授業の内容がよく分かるようになり、国語A・Bでは、全国との差が縮まってきたと考えられる。
生徒質問紙	○ 「授業で使うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いたと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回っている。	
学校質問紙	○ 「授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか」という質問に対して、「よく行った」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。	○ 家庭学習を1時間以上行っている児童の割合が、全国及び全道に比べて低いことから、家庭学習の定着を図ることに課題が見られる。

【芦別市の学力向上策】

- ◎ 数学の授業でのTT(ティーム・ティーチング)や少人数指導・習熟度別指導などの指導形態の工夫改善によるきめ細やかな指導
- ◎ 年2回の生活実態調査の分析による生活習慣の改善及び家庭学習の定着
- ◎ ほっかいどうチャレンジテストの活用及び長期休業中の学習会の実施